

名古屋大学卓越大学院プログラム 情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院

Nagoya University, WISE Program (Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education) Convolution of Informatics and Biomedical Sciences on Glocal Alliances, CIBoG



〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 名古屋大学大学院医学系研究科(医系研究棟3号館5階522室)

Address: 65 Tsurumai-cho, Showa-ku, Nagoya, 466-8550, Japan Nagoya University Graduate School of Medicine (Room 522, 5F, Medical Research Building 3) TEL : 052-744-1946 E-mail: cibog@med.nagoya-u.ac.jp Web : https://cibog.med.nagoya-u.ac.jp/





CIBoG | Convolution of Informatics and Biomedical Sciences on Glocal Alliances 名古屋大学 卓越大学院プログラム 情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院

2023



名古屋大学大学院医学系研究科 教授。専門分野は解剖学。大学院教 育相当の副研究科長としてCIBoGの 立ち上げから企画運営に携わる。

Medicine, Nagoya University Specialized in anatomy. As deputy dean for graduate student education, he is involved in planning, promoting and organizing graduate education programs such as CIBoG.

異分野間ネットワークを強みに 世界で活躍できる 新しい博士人材が生まれている

これからはインフォマティクスやIT、AIと医学生命科学を融合させ、活用できる 博士人材が求められるのではないか。卓越大学院についてコアメンバーで 議論し、そんな人物像が明確になった時にCIBoGの方向性は決まりました。 教育内容は単に生命医科学と情報学のミックスを目指すのではなく、新しい 価値を生み出すためにコンボリューション(畳み込み)のレベルまで融合する こと。さらに、世界で活躍する人材育成のため、語学力に裏づけされた国際 性を重要視すること。そんな目標のもとに、本学の医学や情報学など複数の 研究科、岐阜大学から多様かつ優秀な履修生が集まり、切磋琢磨する環境 は、CIBoGの大きな強みとなっています。

一方で2大学4キャンパス6研究科において、5年一貫の課程と、修士2年博士 4年の6年からなる医学の課程で学ぶ学生に対し、いかにカリキュラムを提供 するか、調整は困難を極めました。医学や生命科学の学生には情報学の科目 を、医学部以外の学生には医学の科目を、と複雑なカリキュラムの履修をアド バイスする目的もあって、各研究科にそれぞれの教育内容を熟知する若手 教員をメンターとして配置。これは結果として、学生を心理面でも支えること になりました。また、コロナ禍で海外でのイベントが中止になった分、ノース カロライナ大学の英語コミュニケーションコースをはじめインターネットを 利用した多彩な英語学習の機会を設け、外部語学試験の受講も必須にした ことなどが履修生の語学力の向上に大きく貢献していると思います。

従来の博士課程学生は、専門分野の深い知識や技術はあっても他分野の 学生と交流を持つ機会が少なかったと思います。しかし、特定領域の知識や スキルがすぐに古くなりがちな現代において、新たな分野を切り拓くために は、分野を越えた広範な人材ネットワークが研究者には求められます。その ためCIBoGではリトリートなどさまざまな交流の場や、国内外の研究機関・ 企業とのアライアンスによる教育の機会を用意しました。また、スタートアップ やアントレプレナーシップを学び、研究費獲得のプロセスを経験する機会も 提供しています。

充実した学びやイベントを経験することで、CIBoGでは従来とは異なる新しい タイプの博士人材が育ちつつあります。いよいよ最初の修了生が世に出ます が、彼らのアカデミアや企業、公的機関での活躍が楽しみでなりません。今後 もCIBoG履修生の先輩後輩の輪、さらに異分野間ネットワークを最大限に 活用し、大きく羽ばたいてほしいと願っています。

In the future, doctoral personnel who can integrate and utilize informatics, IT and AI with medical life sciences will be in demand. The direction of the CIBoG was decided when the core members discussed the WISE Program and the image of such a person became clear. The educational content should not simply aim to mix biomedical sciences and informatics, but to integrate them to the level of convolution in order to create new value. Furthermore, to nurture human resources who can play an active role in the world, internationality backed by language skills should be emphasized. With these goals in mind, CIBoG's great strength is its environment of friendly competition among a diverse and talented group of students from multiple research departments such as medicine and informatics at Nagoya University and Gifu University.

On the other hand, it was extremely difficult to provide a curriculum for students studying at six graduate schools on four campuses of two universities, in a five-year integrated course and in a six-year course consisting of two master's and four doctoral years. With the aim of advising students on the complex curriculum, such as informatics courses for medical and life sciences students and medical courses for non-medical students. young faculty members who are familiar with the respective educational content were assigned as mentors in each of the graduate schools. This has resulted in psychological support for students. In addition, to compensate for the cancellation of overseas events due to the Corona disaster, many English learning opportunities were provided, including an English communication course at the University of North Carolina, and taking external language exams was made mandatory, which helped to improve language skills. Previously, doctoral students had few opportunities to interact with students from other fields, even though they had in-depth knowledge and skills in their specialized fields. However, in today's world, where knowledge and skills in specific fields tend to quickly become outdated, researchers need a broad network of human resources across disciplines in order to open up new fields. For this reason, CIBoG has prepared various exchange opportunities, such as retreats, and educational opportunities through alliances with national and international research institutions and companies. It also provides opportunities to learn about start-ups and entrepreneurship and to experience the process of obtaining research funding.

By experiencing enriching learning and events, CIBoG is nurturing a new type of doctoral talent that is different from the conventional. The first graduates are now on their way to the world, and we cannot wait to see their successes in academia, business and the public sectors. We hope that they will continue to make the most of the circle of senior and junior CIBoG students and the interdisciplinary network, and spread their wings high into the future.

On the strength of an interdisciplinary network, New PhD professionals are being born Who can work globally. 植松 高史 Takashi UEMATSU 名古屋大学大学院医学系研究科総合医 学専攻博士課程満期退学。臨床·研究· 企業いずれにおいても「神経疾患を障害 にしない」をテーマに活動。次年度はパ-キンソン病のバイオセンシングとその解析 を中心に探究を続ける。

想像以上の環境で 新しい視点や知識、スキルが得られ 研究者として成長できた

医学部卒業後、神経内科医として病院で診療にあたる一方、 脳卒中データベースを用いた観察研究を行い、学会発表をして きました。大学院進学にあたり、産学連携に近い研究テーマと して医療と情報学の融合を掲げるCIBoGの理念に興味を持ち、 参加することを決めました。

CIBoGでは、理化学研究所の画像情報処理研究チームへ の国内留学を経験。パーキンソン病の視覚認識障害 に関する革新的な研究を行い、国内外の学会で 発表した成果について現在、論文作成中で す。理研では異なる視点を取り入れた内 容の研究ができ、困難はありましたが、 工学系など異分野の知識や実験手 法などを身につけられたのは大きな 収穫でした。研究発表では国内外 の研究者と交流する機会を得るな ど、想定していた大学院進学のプラ ン以上の環境を与えていただけた と感謝しています。

CIBoGリトリート、GAME Annual Meetingでの発表やディスカッション を通じて、自分とは異なる専門や視野を 持つ方々に、「どのように自分のビジョンと 実績を伝えたらよいのか」「どうしたら興味を 持ってもらえるのか」という視点を強く意識でき るようになったのも成長につながっています。特にボ ローニャのGAME Annual Meetingで神経疾患の研究発表 をさせていただいた際は、海外の先生方と意見を交わすことが でき非常に刺激的でした。会話の中で日本と海外の研究を取り

巻く環境や制度の違いを知って視野が広がり、医学研究への 情報活用の重要性も痛感しました。

昨今、医療とAIを巡る多くの話題が出ていますが、CIBoGでは 既に医療・医学と情報学の融合に重点を置いた、多様な講義 やワークショップなどが提供されています。グローカル (グロー バル&ローカル)もテーマに国内外の研究機関や企業との多分野 交流が充実し、留学に興味のある学生にとっても魅力的です。 成長したいと願う人にとっては、費用面の助成も含め非常に多く の機会と支援を与えてくれる環境と言えるでしょう。

今後の進路については、「神経疾患を障害にしない」という自身 の理念を実現するためのキャリアを歩みたいと考えています。 パーキンソン病をはじめとする神経疾患は、治療法をさらに進化 させ認知機能を向上させることができれば、障害にならない レベルへ改善できると希望を持っています。CIBoGで深めた神経 内科学、画像解析、情報学の知識はきっと役に立つはずです。





different fields, such as engineering. I am grateful that I was given an environment that exceeded my envisaged plans for postgraduate study, such as the opportunity to interact with researchers from home and abroad during my research

foreign doctors. In the course of o in the environment and systems si research in Japan and overseas, which br my perspective and made me acutely aware of th moortance of information utilization in medical rese

In an environment beyond your imagination I gained new perspectives, knowledge, and skills I was able to grow as a researcher

髙橋 秀和

Hidekazu TAKAHASHI

医学専攻博士課程修了。今後も生命 医科学と情報学分野の融合研究、そし て臨床への応用を探究していく。主な 研究テーマは、内視鏡合併症予測・内 視鏡治療補助·膵癌早期発見。

TTAX

名古屋大学大学院医学系研究科総合

eted his doctoral course and earned his PhD a tment of Integrated Medicine, Graduate School



木村 和恵

名古屋大学大学院創薬科学研究科基盤 創薬学専攻博士課程単位取得満期退学。 外資系ITコンサルティング企業のデータ! イエンティストとして活動し、今後も医療と データをつなげることを目指す。

医師としての経験値に 医学・情報学の研究力を加え 社会に還元できる成果を出したい

医学部卒業後は消化器内科医として臨床業務に没頭し、研究活動 は行ってきませんでした。ただ、専門医になったタイミングで今まで の知見を活かして新しいチャレンジがしたいと大学院入学を考えて いたとき、CIBoGをご紹介いただいたのが参加のきっかけです。情報 学と生命医科学の融合研究に興味を持ち、プログラミングの経験 はありませんでしたが、AI技術の将来性には期待を持って いました。

CIBoGの英語研修やリトリートでは異分野の学 生や教員との交流を通じて、幅広い知見にふ れることができました。情報学の研究者か らは教材には載っていないプログラミン グやアルゴリズムの実践的なアドバイ スをいただき、相談し合える仲間に 出会えたことは大きな財産となりま した。これらの経験やつながりは、 研究で直面する課題を乗り越える ための大きな支えとなっています。 実際、当初は医学研究もプログラミ ングもわからないことばかりでした が、研究成果としては、胆嚢や胆管、 膵管の異常を調べる内視鏡的逆行性 胆管膵管造影(ERCP)検査後に起こりう る膵炎のリスクを、患者個別に予測する機械 学習モデルを構築。多くの先生方の指導をいた だきながら、多様な因子を総合的に評価できる高精 度の予測モデルを発表することができました。国内の学会 で若手奨励賞などを受賞し、国際学会や論文発表の中で多くの学 びを得ることができたのもCIBoGのおかげです。

CIBoGでは、さまざまなイベントを通じて自分の中に新しい考え方が 生まれ、世界観が広がります。私もノースカロライナ海外訪問研修で バイオメディカルエンジニアリングの最前線で行われている取り組み を学び、生物学や工学の研究室訪問を通じて、多岐にわたるコラボ レーションの可能性を実感することができました。加えて、チャレンジ したいと思えば、さまざまな技術的・経済的な支援が受けられます。 融合研究や社会実装を目指す学生はもちろん、多角的なアイディア にふれてみたいという学生にも理想的な環境だと思います。 現在は理化学研究所に国内留学し、早期の微小膵がんの画像診断 サポートシステムの開発に挑戦しています。今後も多くの患者さんを 診てきた臨床経験を強みに、画像解析などを専門とする方々と連携 しながら研究を進めていきたいと考えています。目標は、自身の研究 成果を実際の社会に還元すること。そのためにもCIBoGで学んだ 知識と技術を最大限に活かし、さらに努力を重ねていきます。

After graduating from medical school, I immersed myself in clinical work as a gastroenterologist and did not engage in research activities. However, when I became a medical specialist, I wanted to take on a new challenge by utilizing my previous knowledge and was thinking about enrolling in postgraduate studies, and was introduced to CIBoG, which is when Lioined. Lwas interested in research combining informatics and biomedical sciences, and although I had no programming experience, I had high hopes for the future potential of AI technology.

The English language training and retreats at the CIBoG gave me the opportunity to experience a wide range of knowledge through interaction with students and faculty from different fields. The informatics researchers gave me practical advice on programming and algorithms that were not included in the teaching materials, and it was a great asset to meet colleagues with whom I could consult each other. These experiences and connections have been a great support in overcoming the challenges I faced in my research.

> In fact, in the beginning, I had no idea about medical **research or** programming, but as a result of my research, I built a machine learning model to predict the risk of pancreatitis that can occur after endoscopic retrograde cholangiopancreatography (ERCP) examinations for abnormalities in the gallbladder, bile ducts and pancreatic ducts for individual patients. With the guidance of many doctors, we were able to present a highly accurate prediction model that can comprehensively evaluate diverse factors. Thanks to CIBoG. I was awarded the Young Scientist Incentive Award and other prizes at domestic conferences, and was able to learn a lot from international conferences and paper presentations.

At CIBoG, new ways of thinking are born in me and my world view is broadened through various events. I also learn about initiatives at the forefront of biomedical engineering during the North Carolina overseas study visit, and through visits to biology and engineering laboratories. I was able to realize the potential for a wide range of collaborations. In addition, a variety of technical and financial support is available if you want to take on challenges. I think this is an ideal environment for students who want to experience multifaceted ideas, as well as for those who are aiming for fusion research and social implementation.

I am currently studying in Japan at RIKEN, where I am taking on the challenge of developing an imaging diagnosis support system for early-stage small pancreatic cancer. I would like to continue to use my clinical experience of treating many patients as a strength and carry out research in collaboration with people specializing in image analysis and other fields. My goal is to return the results of my research to society. To achieve this. I will make the most of the knowledge and skills I have learnt at CIBoG, and will continue to work even harder.

I hope to combine my experience as a physician With my research skills in medicine and informatics To produce results that will benefit society.

医療とデータを結びつけ 医療従事者の業務のサポートや 健康生活に貢献したい

学部時代の病院実習で、今後は情報科学の技術を活用した電子カルテ の統一化や医療従事者の業務効率化が必要になると感じ、その進展 に貢献したいと考えてきました。そこで、情報学を研究に活用している 現在の研究室に進学し、博士課程進学に向けて、医療と情報科学の 融合を理念に掲げているCIBoGに志願しました。 研究室では、情報学と生物工学を組み合わせた研究に取り 組んでいます。再生医療等製品の材料に使用される 細胞の品質を細胞画像から簡便に評価するため の技術開発を進めており、細胞の形態学的 特徴と品質情報を用いて、機械学習を 使った解析を行っています。しかし、機 械学習では、学習させるデータ量や多 様性が予測精度に影響します。生物 の実験ではデータが集まりにくい課 題があり、その課題解決に向けて、 コンピュータ上でデータを増やす 技術の開発や遺伝子工学技術を 用いて細胞自体の多様性を上げる 研究も行っています。 CIBoGの講義は医学や情報学、プロ グラミングなど幅広い分野にわたりま す。私にとって貴重だったのは、遺伝子発 現解析や波形や画像解析など医療データの

解析などについて学べたこと。情報関連の専門 知識への理解が深まり、将来も役立つノウハウを 習得できました。また、互いの専門分野の勉強会をしたり、

就活の際に情報交換したりと、CIBoGの女子学生同士で交流できた のも良い思い出です。CIBoGリトリートでのポスター発表をきっかけに 知り合った学生は、研究を進めるために情報系から創薬科学研究科 へ移籍し、今では同じ研究室に所属しプロジェクトについて議論する 仲間となりました。自分のモチベーションを高めてくれる意欲的な仲間 たちとは、CIBoGに参加していなければ出会えていなかったと思います。 出会いと言えば、東北大学との卓越大学共創シンポジウムで、他大学 の方と一緒にグループワークに臨んだことも刺激的でした。東北大学 の皆さんのレベルの高さを感じるとともに、議論の整理や集約といった 自分の得意なスキルも明確になりました。

今後はヘルスケア部門もあるITコンサルティング企業で、データサイエ ンティストとして働く予定です。CIBoGや博士課程で修学したスキルを 活かして、いずれは医療従事者の作業の効率化に貢献したり、インフラ から生活習慣を把握し改善を促す健康情報を伝えたりと、医療と情報 を組み合わせたツールの開発に貢献したいと考えています。新たな価値 を見出しながら、誰かの生活をより良く変える挑戦をしていきたいです。





data cannot be collected in biological expe are also deve silico and

increase the diversity of the cells phenotype CIBoG lectures cover a wide range of field poster presentation at the CIBoG retre transferred from the information sc Graduate School of Drug Discovery Scie advance his research, and now we are in the sa

now colleagues in the same laboratory and discuss project

My goal is to connect healthcare and data, Supporting the work of healthcare professionals, And contributing to healthy lifestyles.

伊佐次 光莉 Hikari ISAJI

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健 间终我间 学専攻博士課程修了。リハビリテーション 350 療法学コースに学び、専門は精神科作業 療法(分野:作業療法学)。作業療法十として 療法(分野:作業療法学)。作業療法士として 臨床経験を積みながら、精神障害を抱える 方々の地域生活を支援する研究を継続。

ted her doctoral course and earned her PhD , ate School of Medicine, Nagova



玉田 雄大

次への進級時に、名古屋大学大学院医学 系研究科総合医学専攻(MD・PhDコース) に進み、2024年3月同研究科博十課程短 縮修了。今後も医療政策・ヘルスサービス リサーチ分野を探究していく。

精神障害者の地域生活に 貢献できる支援や システムづくりに取り組みたい

非常勤の作業療法士として精神科で患者さんのケアにあたりなが ら、精神障害者の「時間の使い方」に着目し、地域生活を長く維持 できる活動について調査してきました。その中で活動を「時間」と いう指標に数値化し、日常生活をデジタル化して見ることで個別化 予防につながるのでないか、と考えたことがCIBoG参加のきっかけ です。

CIBoGでは海外で開発されたワークブックによる支援 方法を用いた介入研究を行いました。研究を通 してカナダのアルバータ大学へ留学すること ができ、今年開催の国際学会では共同 ワークショップを実施する予定です。こ れらはCIBoGの支援で実現したもの で、プログラムで学んだ英語やディス カッションカ、チームワークカが活か されたと感じています。特に英語の 研修では研究活動をする上で重要 な専門的な英語のスキルが向上し ました。ベルリッツの英語クラスで は、履修生同士で研究の話をするこ とで異分野の研究を知り、自分の研究 をわかりやすく話す練習にもなりました。 CIBoGのスタンフォード大学との合同ワー クショップや東北大学とのシンポジウム、バイ オデザインなどでのグループワークでは、社会の さまざまなニーズから解決策を考え、資金集めの方法 や誰をターゲットにするかなど具体的なことまで話し合う ことができて非常に新鮮でした。現在も医療現場に出ていますが、 医療の領域ではどうしても疾患や症状の改善を目指すことが中心 となります。そのため社会や消費者のニーズに基づく視点や考え方 は、非常に刺激的であり深く考えさせられました。 日本の精神科の地域生活支援は、国際的に見るとまだ発展途上

であり、多くの対象者が病院で長い時間を過ごし、地域生活や 社会参加にはさまざまな課題が存在します。精神障害者が安心 して生活できる支援方法やシステムの構築が求められており、その ためには他分野の専門家、医療福祉施設や自治体などの組織と の連携が必要です。さらに、海外の研究や手法を応用して日本に 導入することも重要です。そこで今後はCIBoGで学んだスキルを 活かし、他分野や国内外の研究者と連携した共同研究、海外の システムへの理解をもとに、日本の状況に適したシステムづくりに も携わりたいと考えています。また、日本ではまだ少ない当事者 参加型の研究にも挑戦したいですね。研究者かつ作業療法士と して、精神障害者の地域包括ケアに貢献できるような活動をして いきたいと考えています。

As a part-time occupational therapist, while caring for patients in psychiatric, I have focused on the ' time-use ' of people with mental disabilities and investigated activities that enable them to maintain their community life for longer. I was inspired to participate in the CIBoG because I thought that quantifying activities in terms of 'time' and digitizing daily life could lead to precision prevention.

I conducted an intervention study using a workbook-based support method developed overseas. Through my research, I was able to study at the University of Alberta in Canada and will be conducting a joint workshop at the international conference this year. These were made possible with the support of CIBoG, and I feel that the English, discussion, and teamwork skills I learnt in the program were of great use. In particular, the English language training has improved my professional English skills for research activities. In the Berlitz English classes, I was able to learn about research in different fields by talking about research with other students taking the course, and it was also good practice for explaining my own research in an easy-to-understand way.

Group work at the CIBoG's joint workshop with Stanford University, the symposium with Tohoku University, and the biodesign course was very refreshing. as we were able to think about solutions based on various social needs and discuss specifics such as how to raise funds and who to target. I feel that in the medical field the focus is inevitably on improving diseases and symptoms. Therefore, perspectives and ideas based on the society and consumers needs were very stimulating and made me think deeply.

From an international perspective, the support for community life in the psychiatric field in Japan is still in its infancy. Many individuals with mental illness spend long periods of time in hospitals and there are various challenges for community life and social participation. There is a need to establish support methods and systems that enable people with mental disabilities to live in peace, and this requires cooperation with specialists in other fields, medical and welfare facilities, local authorities and other organizations. Furthermore, it is also important to apply research and methods from overseas and introduce them to Japan. Therefore, in the future, I would like to make use of the skills I have learnt at CIBoG to conduct joint research in collaboration with researchers in other fields and in and outside Japan, and understand systems from abroad, and be involved in creating systems suited to the Japanese situation. I would also like to take on the challenge of participatory action research , which is still rare in Japan. As a researcher and occupational therapist. I would like to contribute to comprehensive community care for people with mental disabilities.

I want to work on creating support and system that can contribute to the community life of people with mental disabilities.

プログラミング技術を活用し 疫学領域で精力的に活動。 国際共同研究にも取り組む

CIBoGに参加して、研究者として大きく成長することができたと考えて います。CIBoGに参加する前は、地域住民を対象にしたコホート研究に 取り組み、特に笑いの健康への影響や受動喫煙の実態を評価する 研究を行っていました。その中で大規模な医療データを分析するには、 効率的なプログラミング技術が必要であると認識し、生命医科学と 情報学をつなぐ知識を得たいと思いCIBoGへの参加を決意 しました。

博士課程の在籍期間中には、医療・保健・行政 データを統合したデータベース開発プロジェ クトに参画する機会を頂き、CIBoGで学ん だプログラミング技術を応用してさまざ まな研究に取り組みました。例えば、 数百万人規模のデータを統合分析 することで、新型コロナウイルスワク チン接種の感染予防効果を明らか にすることができ、この研究成果は 原著論文として国際学術雑誌に掲 載されました。

研究者としてのコミュニケーション 能力が向上したのも、CIBoGのおかげ です。初年度にノースカロライナ州立 大学英語コースで学んだ実践的な学術 英語は、海外の研究者との共同研究の際に 感じる壁を取り除いてくれました。CIBoGの支援 を得てスウェーデン・オレブロ大学に留学した際も、 現地でスムーズに研究に取り掛かることができ、国際共同

研究に取り組む自信を得ることができました。疫学領域では、常に 多数の研究者と共同研究を行う必要があります。CIBoGで研究を行う 上での物事の伝え方やプロフェッショナリズムについても学べたこと は、疫学研究者としての土台となりました。

CIBoGの魅力は多々ありますが、まず普段の研究生活では知り合え ない方々と交流できる点が挙げられます。多様な研究分野の方々との 出会いが、分野を越えた"健康"への学術的な理解を深める上で貴重 な経験となりました。また、学生一人ひとりに対する充実したサポート も特筆すべき点だと思います。支援室の先生方、個別メンターの先生 方は一人ひとりに時間をとって日頃の研究生活について相談に乗って くださいました。研究を続けていく中で不安が生じた際も相談できる方 がいることで、とても心強かったです。

修了後は医学部医学科に復学し、その後は医師として働きながら医療 政策・ヘルスサービスリサーチ分野の研究を続けたいと考えています。 医師としては一般の皆さんに難しいことをわかりやすく、正しく伝える ことを大切にしつつ、研究者としてはCIBoGで培った知識を活用し、 国の政策立案などに還元できる成果を出せるよう頑張ります。

2021年4月名古屋大学医学部医学科6年





researcher. The academic English skills that I learned at the North Carolina State University English course removed the barriers I felt when collaboratin at Örebro University in Sweden with

can get to know with researchers fields who you would not be able to get to know if you only spent times in your lab. Meet researchers in a variety of fields was a valuable e

Utilizing programming techniques, Productively worked in epidemiological field. Collaborated with international researchers.

畑中 理菜

Rina HATANAKA

名古屋大学大学院生命農学研究科応用 回続講回 生命科学専攻博士課程修了。専門分野は 糖鎖生物学。がん細胞における糖鎖生合成 酵素の機能研究後、研究職として製薬企業 へ。開発薬の上市を目標に研究に挑む。

PhD at Department of Applied Bioscience at bringing new drugs to the market

未知の酵素構造の発見など、 CIBoGでの経験を糧に 医薬と情報の橋渡しをする製薬研究者へ

修士課程でがんの悪性形質解析などに取り組む中で、大規模な 画像解析の自動化の必要性を感じ、データサイエンスに関心を持つ ようになりました。ただ、博士課程への進学は経済面で不安があり 迷っていたんです。そんなとき経済支援が充実し、研究の継続と データサイエンスの学びが叶うCIBoGを知り、課題がすべて解決 できると参加を決めました。

CIBoGのプログラムは多岐に渡り、自分の世界を広げ てくれたと感じています。バイオデザインセミナー では、医療・ヘルスケア領域におけるニーズの 捉え方から製品化までを学び、幅広い分 野に応用の利く視点を身につけることが できました。また、解剖見学実習は自身 の専門分野では縁のない貴重な経験 となりました。それまでは細胞単位 のミクロの世界ばかりに着目して きましたが、身体の組織や臓器など を観察させていただき、あらためて 生命の神秘を感じ、見える世界が 変わりました。また、医師や看護師、 製薬企業の方々との交流を通して、医 学・薬学の方々のニーズや考え方への 理解を深めることができました。企業や 一般の方々へ研究内容を伝えるサイエンス コミュニケーション能力も向上した思っています。 そして、研究者として大きな前進につながったのが、 遺伝情報データベース検索の演習です。ネット上のさまざま な情報やツールの活用について学び、自身の研究への応用を試す中 で、InMeRFというツールを糖転移酵素群に活用してみたところ酵素 活性に重要な構造が明らかになり、新発見に至りました。これも周り の先生方が「面白い、やってみよう」と、研究を続けるように背中を 押してくれたおかげです。研究成果は国際学会誌にも投稿すること ができました。

CIBoGは生命医科学と情報学に興味があり、自由度の高い環境で 学びたい学生にとって理想的な環境です。孤独に陥りやすい博士 学生という立場でも知り合いが増えますし、挑戦の機会も驚くほどに 充実し、支援も一人ひとりの意向に沿った形で用意してくれます。 研究とともに"成し遂げたい何か"があるのであれば、この環境を活用 しない手はありません。

修了後は、製薬研究職に就くことになりました。CIBoGでの情報学の 学びを活かし、研究者とデータサイエンティストの橋渡しができる 存在になれればと考えています。社会のニーズをくみ取りながら、がん 治療への貢献を目指して糖とたんぱく質を認識する抗体医薬の 開発を進め、いつの日か薬が上市されることが目標です。

While working on malignant trait analysis of cancer during my master's course, I became interested in data science, as I felt the need to automate large-scale image analysis. However, I was unsure about the financial aspects of entering a doctoral course. That's when I heard about CIBoG, which offers excellent financial support and allows you to continue your research and study data science, and I decided to join because I thought it would solve all my problems. The CIBoG program is diverse and I feel it has broadened my world. In the biodesign seminar, I learnt about everything from how to identify needs to commercialization in the medical and healthcare fields, and gained a perspective that can be applied to a wide range of fields. The dissection field trip was also a valuable experience that I had not had in my own field of specialization. Until then, I had only focused on the microscopic world of cellular units, but being able to observe the tissues and organs of the body made me feel the mystery of life anew and changed my view of the world. I was also able to deepen my understanding of the needs and perspectives of people in medicine and pharmacy through interaction with doctors, nurses and

people from pharmaceutical companies. I believe that I have also improved my science communication skills in communicating my research to companies and the general public.

Another major step forward for me as a researcher was the genetic information database search exercise. I learnt about the use of the internet and tried applying them to my own research, and when I used the tool InMeRF for a group of glycosyltransferases, it revealed a structure important for enzyme activity, leading to a new discovery. This was thanks to the teachers around me, who encouraged me to continue my research, saying that it was interesting and that I should give it a try. I was also able to submit mv research results to international journals.

The CIBoG is an ideal environment for students who are interested in biomedical sciences and informatics and want to study in a highly liberal environment. As a PhD student, it is easy to feel isolated, but you get to know people, the opportunities for challenge are amazing and the support is tailored to your individual wishes. If you have something you want to achieve alongside your research, there is no reason not to take advantage of this environment. After completing my studies, I will be working in pharmaceutical research, and I hope to make use of my informatics studies at CIBoG to become a bridge between researchers and data scientists. My goal is to develop antibody drugs that recognize sugars and proteins with

the aim of contributing to cancer treatment while taking into account the needs of society, and to one day bring the drugs to market.

Experiences gained at CIBoG,

Such as the discovery of unknown enzyme structures, Will help me to become a pharmaceutical researcher **Connecting** biomedical sciences and informatics.

CIBoGで得た知識を活用し 長年の課題だった 新たな神経回路機構を発見

河谷 昌泰

神経細胞のダイナミックな応答や自律神経の機能に興味を持ち、 学部ではマウスから取り出した神経細胞を使って、神経細胞の つながりやさまざまな物質に対する応答を調べる研究をしていま した。最近の神経科学の研究では、生体から記録された複雑で 大規模な生理学的データを統計学的に処理する必要があります。 博士課程では、こうした生体の複雑なデータを扱う予定で したので、CIBoGのプログラムは足掛かりになると 考えました。

期待どおり、博士課程での研究はCIBoGで 得た知識やスキルに大いに助けられました。 研究ではマウスをモデルに、ヒゲの動き (運動)が感覚野の神経活動に与える 影響とその神経回路的なメカニズム の解明を目指し、光遺伝学という実 験手法を用いた解析により、長く 詳細が不明だった運動によって 活性化する脳の神経回路の発見 に至りました。この解析を行うには、 かなり複雑なプログラミングコード を用いる必要がありましたが、CIBoG でプログラミング学習へのさまざまな 支援をいただけたことで、自分の研究で 使うコードが書けるようになりました。当初は プログラミングについては何もわからず苦手意識 もありましたが、多くの学びの機会によって克服し、 それが今回の成果につながったと感じています。論文は 米国神経科学学会誌に掲載され、広く世界に発表することができ ました。

CIBoGリトリートでは、通常の学会や研究室で交流する機会が 少ない他分野の研究者の疫学調査や臨床画像などの研究発表を 聞き、見識を広げることができました。オンライン開催の際には座長 も体験させていただき、発表者として参加する以上の成長ができた と思います。また、海外学会への参加、卒業後の進路探しにおいて 言語の壁をあまり感じることなく活動することができたのも、充実した 英語学習のおかげです。CIBoGの支援で参加したスイスでの学会 でお話をさせていただいた先生方が、後に投稿論文の査読者とも なり、非常に意義のある学会参加となったことにも感謝しています。 今後はポストドクター研究員としてアメリカ中西部にあるセント ルイス・ワシントン大学の痛み研究センターで、学部時代の研究に 近しい内臓痛や臓器の機能に関わる神経系の研究を行う予定 です。神経細胞の研究内容やCIBoGで得た知識・技術を応用しな がら取り組み、将来は自分の研究室が持てるように必死で研究を 楽しんでいきたいと思います。

名古屋大学大学院医学系研究科総合医 学専攻博士課程修了。ポストドクター研 究員として、セントルイス・ワシントン大学 で痛みと自律神経の研究を行う予定。





led to the discovery of neural circuits in the brain that ar activated by of rather complex programming code, but thanks to the various support for learni

listening to presentation that I rarely have the opportunity to intera at regular conferences or in the laboratory. I was able to experience chairing an online m

Using the knowledge gained from the CIBoG A long-standing challenge **Discovering new neural circuit mechanisms** 滝本 愛太朗 Aitaro TAKIMOTO

名古屋大学医学系研究科総合医学専攻 博士課程。2023年6月からシンシナティ 小児病院リサーチフェロー。帰国後は 小児外科医として臨床に携わりながら、 基礎研究経験を活かしトランスレーショ ナルリサーチを展開したい。

ng to Japan, he would like to develop transla gaging in clinical practice as a pediatric surgeo

鈴木 佑治

名古屋大学大学院医学系研究科総合医 学専攻博士課程満期退学。助教として在 学中の研究を継続するとともに、新たな挑 戦のために神経生理学の分野へ。生命を 細胞・分子の言葉で理解することを目指し て多層的な生命科学研究を続けていく

臨床医ならではの視点や発想で 基礎と臨床をつなぐ トランスレーショナルリサーチを

小児外科医として臨床を経験した後、博士課程では、AIを用いた 腸閉塞の画像診断支援技術の開発を情報学研究科の森研究室 と共同で進めてきました。腸閉塞は放置すると命に係わる緊急性 の高い疾患です。通常、CT検査で診断しますが画像の読影は 非常に難しく、診断を早く正確に行うためのAIの活用には、大きな 可能性を感じています。基礎と臨床を結ぶトランスレーション ナルリサーチの推進を掲げるCIBoGは、臨床応用を 見据えたAI診断の研究との親和性が高く、研究 活動におおいに参考になりました。 研究では、AI トレーニングに必要なCT 画像サンプルの取得や教師画像作成を 担当。また、テストの度に技術の精度 について情報学の研究者へフィード バックを行い、学習量の増加やアル ゴリズムの変換を提案する作業を 繰り返してきました。こうして精度を 高めたAI診断の臨床レベルでの有 用性を評価するために、研修医・外 科医を対象とした介入試験を実施。 臨床現場への応用を目標に、医師が 使いやすいか、診断時間が短縮できるか など実際の使用にフォーカスを当て、多く の方にご協力いただきました。その結果、満足 のいく成績となり、現在、論文投稿中です。介入 試験の実施に際しては、各病院の臨床研修センター への連絡、病院での説明会の開催、厚生労働省との交渉 など多くの調整が必要で苦労しましたが、それも自身の成長に つながる良い経験になったと感じています。

自分より若いメンバーとそれぞれの研究内容を語り合ったCIBoG リトリートは、とても面白く有意義な場となりました。エネルギッ シュで能力の高い研究者が数多いることがわかりましたし、何より 誇りをもって挑戦を続ける第一線の研究者との交流はとても刺激 的で、自分自身を高めてくれたと思います。私もCIBoGで研究その ものの楽しさに気づき、基礎と臨床をつなぐ研究を続けていきたい と考えるようになりました。最終的に研究成果を社会に還元する ためにはニーズ発の研究を進めることも重要で、臨床医だからこそ 発想できることがあるのではないかと考えています。

現在、CIBoGの支援を受け、アメリカ・シンシナティ小児病院に リサーチフェローとして研究留学中です。小児遺伝性肝臓病の モデル構築を目指す研究に関わらせていただいています。帰国後 は小児外科医として臨床に邁進するとともに、留学で養う基礎 研究のノウハウを活かして小児外科の研究の発展にも貢献したい と思っています。

After gaining clinical experience as a pediatric surgeon, he collaborated with the Mori Laboratory of the Graduate School of Informatics during his doctoral studies. Together, they worked on developing Al-based technology to support image diagnosis for bowel obstruction. Bowel obstruction is a life-threatening condition that requires urgent attention if left untreated. Typically, it is diagnosed through a CT scan. However, interpreting these images is challenging, and there is significant potential in using AI to achieve quick and accurate diagnoses.

The CIBoG, which promotes translational research connecting basic and clinical studies, aligns well with AI diagnostic research geared towards clinical applications. The insights gained have been valuable. In research, CIBoG played a key role in acquiring CT image samples and generating ground-truth images for AI training. After testing the AI's effectiveness, feedback was provided to informatics researchers regarding the technique's accuracy, leading to suggestions for increasing training volume and refining the algorithm.

> To assess the improved accuracy of Al diagnostics in a clinical setting, an interventional study involving residents and surgeons was conducted. The focus was on practical aspects, such as ease of use for doctors and reduction in diagnosis time. Many individuals collaborated to apply the system to clinical practice, resulting in satisfactory results. The study is currently in the process of being

During the intervention study. numerous adjustments were necessary, including reaching out to clinical training centers at various hospitals, hosting briefing sessions, and negotiating with the Ministry of Health. Labour and Welfare. Despite the challenges, this experience was seen as valuable for personal growth.

Participating in the CIBoG retreat, where research was discussed with younger members, proved to be an interesting and meaningful experience. The encounter with energetic and highly competent researchers, especially those eager to take on challenges, was stimulating and contributed to personal development. The joy of research itself was discovered at CIBoG, fostering a desire to continue research that bridges basic and

Currently, as a research fellow supported by CIBoG, he is studying at Cincinnati Children's Hospital Medical Center in the USA. The focus is on building a model for pediatric hereditary liver disease. Upon returning to Japan, the plan is to pursue clinical practice as a pediatric surgeon and contribute to the advancement of research in pediatric surgery, utilizing the basic research expertise gained during the study abroad.

To promoting translational research **C**onnecting basic and clinical research With the unique perspectives and ideas of a clinician

多様性を尊重する意識や 国際性が育まれ 人間としても成長できる

個体レベルから分子レベルまでを扱う多層的な研究に興味を持ち、CIBoG では、がん遺伝子として知られるタンパク質チロシンキナーゼの新たな生物 学的役割の解明に取り組みました。この過程で、分子から現象を想起する 方向と現象を分子で説明する方向の両方向の考え方を経験し、がんと神 経の生化学・細胞生物学に関する知識を深めることができました。 CIBoGでは、実に多くのイベントや研修が提供されます。私 はCIBoGリトリート、GAME-CIBoG キックオフワーク ショップ、ヨーロッパ最古のイタリア・ボ<mark>ローニャ</mark> 大学訪問に参加したほか、ノースカロライナ 州立大学の英語プログラム、ベルリッツの オンライン英会話でも学びました。こう した体験や学びを通して国際的な多 様性を肌で感じ、自身の研究・専門 領域以外の知識の習得やコミュニ ケーションの難しさを実感。同時 に、世界には優れた若手研究者が 数多く存在することを知ることが できました。

さらに、これまでは想像もできなかっ た、しかし当たり前の気づきをも得る ことができました。自身が取り組んでき た、個体から分子までの全てのレベルを 扱う一つの医学研究は「表層的」で、生命科学 の営みの中では氷山の一角に過ぎません。この 表層的な営みにおいてですら、これを成し遂げる上 では、これまでの先人が他分野にわたって積み重ねてきた

無数の発見・発明・技術・理論を基盤とする『知見』が必要不可欠で あることを理解し、「無知の知」をあらゆる場面で痛感しました。だからこそ 多分野との連携が必要であり、これまで以上に科学や言語、文化などの 多様性の重要性を理解し、尊重する姿勢が身についたと思っています。 CIBoGの魅力は、単に研究に没頭するだけでは得られない、世界の歴史や 情勢、社会、その中での自分の位置づけを深く考える機会に満ちあふれて いる点です。研究の成果としても、査読つきの国際誌に共著論文や主著総説 を発表し、学会・シンポジウムでの発表に対して複数の賞を受賞することが できましたが、人間性の醸成が促される点はCIBoGならではの魅力だと 感じます。積極的に飛び込んでみることで、思いもよらない気づきを得ること ができます。各種イベントや研修、プログラムに参加する上で経済的な負担 もありませんし、若手同士のコミュニケーションで触発されることも多く、 後輩の皆さんにはぜひ参加をおすすめしたいです。

今後も研究者として大学に残り、疾患発症の新たなメカニズムの解明を 目指します。同時に、タンパク質チロシンキナーゼの研究をさらに深化させる ために神経生理学を学び、生理・病理現象を分子レベルで解明することに 挑んでいきます。





researchers in the worl

Furthermore, I also gained a previously unima but obvious realization. The medical research l have b levels from individual to molecular, is

The attraction of CIBoG is that it is full of opportunities to think deeply about world history th state of affairs, society and one's place in it. wh be obtained by simply immersing oneself in research. As a res

A sense of respect for diversity and Fosters a cosmopolitan outlook grow as a human being.